

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-81176

(43)公開日 平成9年(1997)3月28日

(51)Int.Cl. ⁹	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
G 1 0 L 3/00			G 1 0 L 3/00	Q
G 1 0 K 15/04	3 0 2		G 1 0 K 15/04	3 0 2 F
G 1 0 L 5/02			G 1 0 L 5/02	J
H 0 4 M 9/00			H 0 4 M 9/00	D

審査請求 未請求 請求項の数3 O L (全 12 頁)

(21)出願番号 特願平7-239459

(22)出願日 平成7年(1995)9月19日

(71)出願人 000005821

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

(72)発明者 中谷 直史

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(72)発明者 粟屋 加寿子

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(72)発明者 小林 保道

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

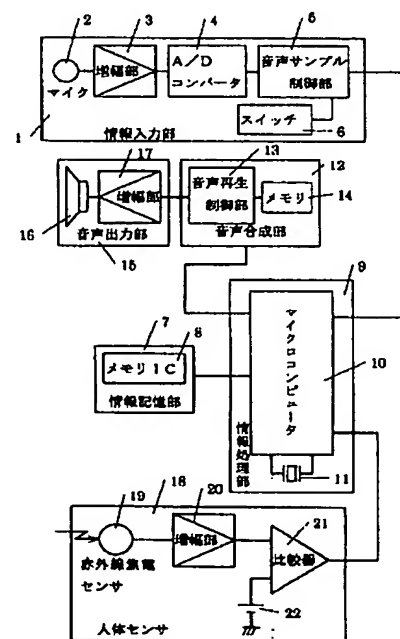
(74)代理人 弁理士 滝本 智之 (外1名)

(54)【発明の名称】 伝言情報整理装置

(57)【要約】

【目的】 伝言用のホワイトボードを見なくても、玄関または部屋に入ったときに自動的に音声によって伝言を読み上げる伝言情報整理装置を提供することを目的としている。

【構成】 玄関或いはドアに取り付けた人体センサ18が人の入室を検知すると、情報記憶部7が記憶した伝言内容を音声出力部15が自動的に読み上げる伝言情報整理装置としている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 伝言を入力するための情報入力部と、入力された伝言を記憶する情報記憶部と、人の動きを検知する人体センサと、前記情報記憶部にある伝言データを管理し前記人体センサからの信号を受けると伝言データの再生を指示する情報処理部と、記憶された伝言を再生する音声合成部と、音声信号を出力する音声出力部とを備え、伝言があると人体を検出時に音声でその伝言を知らせる伝言情報整理装置。

【請求項2】 伝言を入力するための情報入力部と、入力された伝言を記憶する情報記憶部と、入力された伝言の保存と消去の管理を行う情報処理部と、伝言内容や呼び出し信号を送信したり応答信号を受信するデータ通信部とを備えた呼び出し装置と、伝言や呼び出し信号を受信したり応答信号を送信するデータ通信部と、応答するためのスイッチ操作部と、受信した伝言を出力する音声出力部とを備えた情報出力端末とからなり、呼び出し装置より情報出力端末を呼び出したときに応答がない場合は前記呼び出し装置の情報記憶部に伝言を記憶する伝言情報整理装置。

【請求項3】 玄関など人の入室するドアなどに取り付けた発信器と、この発信器からの信号を検知する信号センサと伝言やメモを入力する情報入力部と入力された情報を記憶する情報記憶部とこれらの情報の保管や消去や出力を管理する情報処理部と記憶している情報を外部へ出力する情報伝送部とからなる携帯情報端末と、携帯情報端末が送った情報を受信する情報受信部と受信した情報を記憶する情報記憶部と情報の保管や消去を管理する情報処理部とからなる情報整理端末とを備え、携帯情報端末の信号センサが働くとき携帯情報端末の情報記憶部内の情報を情報整理端末へ送る伝言情報整理装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、家庭において家族への伝言や備忘録として記憶したものを電子的に整理保管する伝言情報整理装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来、家族への伝言は、壁掛けのホワイトボードにフェルトペンで記入すると入った方法がとられていた。このため、帰宅した家族は毎回このホワイトボードを見て何か伝言がないかをチェックする必要がある。また、相手が離れている場合にはインターホンなどで相手呼び、内容を伝えるようにしている。しかし、この場合には相手がいない場合には伝言を伝えることができない。さらに外出先で思いついたことがある場合には手帳などにメモするが、メモしたこと自体を忘れてしまう場合がある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 このように従来の伝言伝達の方法は、必ずしも完全なものではないという課題

を有している。

【0004】 本発明はこのような従来の伝言伝達方法が有している課題を解決するもので、伝言用のホワイトボードを見なくても、玄関または部屋に入ったときに自動的に音声によって伝言を読み上げる伝言情報整理装置を提供することを第一の目的としている。

【0005】 また、伝言相手が不在の場合には自動的に伝言を記憶する伝言情報整理装置を提供することを第二の目的としている。

【0006】 更に、外出先で思いついたことをメモした場合、この内容を一旦保存でき、帰宅時にメモした内容を確認できる伝言情報整理装置を提供することを第三の目的としている。

【0007】

【課題を解決するための手段】 第一の目的を達成するための本発明の第一の手段は、伝言を入力するための情報入力部と、入力された伝言を記憶する情報記憶部と、人の動きを検知する人体センサと、前記情報記憶部にある伝言データを管理し前記人体センサからの信号を受けると伝言データの再生を指示する情報処理部と、記憶された伝言を再生する音声合成部と、音声信号を出力する音声出力部とを備え、伝言があると人体を検出時に音声でその伝言を知らせる伝言情報整理装置とするものである。

【0008】 第二の目的を達成するための本発明の第二の手段は、伝言を入力するための情報入力部と、入力された伝言を記憶する情報記憶部と、入力された伝言の保存と消去の管理を行う情報処理部と、伝言内容や呼び出し信号を送信したり応答信号を受信するデータ通信部とを備えた呼び出し装置と、伝言や呼び出し信号を受信したり応答信号を送信するデータ通信部と、応答するためのスイッチ操作部と、受信した伝言を出力する音声出力部とを備えた情報出力端末とからなり、呼び出し装置より情報出力端末を呼び出したときに応答がない場合は前記呼び出し装置の情報記憶部に伝言を記憶する伝言情報整理装置とするものである。

【0009】 また第三の目的を達成するための本発明の第三の手段は、玄関など人の入室するドアなどに取り付けた発信器と、この発信器からの信号を検知する信号センサと伝言やメモを入力する情報入力部と入力された情報を記憶する情報記憶部とこれらの情報の保管や消去や出力を管理する情報処理部と記憶している情報を外部へ出力する情報伝送部とからなる携帯情報端末と、携帯情報端末が送った情報を受信する情報受信部と受信した情報を記憶する情報記憶部と情報の保管や消去を管理する情報処理部とからなる情報整理端末とを備え、携帯情報端末の信号センサが働くとき携帯情報端末の情報記憶部内の情報を情報整理端末へ送る伝言情報整理装置とするものである。

【0010】

【作用】本発明の第一の手段は、玄関或いはドアに取り付けた人体センサが人の入室を検知すると、情報記憶部が記憶した伝言内容を音声出力部が自動的に読み上げる伝言情報整理装置としている。

【0011】本発明の第二の手段は、インターホンとしても機能する呼び出し装置によって伝言相手呼び出した際、相手が不在の場合には自動的に伝言を記憶する伝言情報整理装置としている。

【0012】本発明の第三の手段は、携帯情報端末を使用して外出先で思いついたことをメモ送信すると、情報整理端末がこれらの情報を記憶しておき、玄関先に設置した発信器によって携帯情報端末を持っている人の帰宅を検知すると、携帯情報端末が自動的に音声によってメモした内容を読み上げ、しかも後でメモした内容を情報整理端末によって確認整理することができる伝言情報整理装置としている。

【0013】

【実施例】

(実施例1) 以下本発明の第一の実施例である伝言情報整理装置について説明する。図1は、本実施例の構成を示すブロック図である。1は伝言を入力するための情報入力部で、音声を電気信号に変換するマイク2と、マイク2の電気信号を増幅する増幅部3と、増幅部3が増幅した音声のアナログ信号をデジタル値に変換するA/Dコンバータ4と、A/Dコンバータの動作を制御しデジタル信号を読み出す音声サンプル制御部5と、使用者が伝言を入力するときに使用するスイッチ6とを備えている。スイッチ6は使用者の音声入力を音声サンプル制御部5に通知するためのものである。7は前記スイッチ6によって入力された伝言を記憶する情報記憶部であり、メモリIC8によって構成している。また18は人の動きを検知する人体センサで、玄関あるいは室の外に設置している。人体センサ18は、人体から放射される赤外線によって人の動きを検知する赤外線焦電センサ19と、赤外線焦電センサ19の信号を増幅する増幅部20と、増幅部20の出力信号があるしきい値を越えたかどうかを判定する比較器21と、しきい値を設定する基準電圧源22とによって構成している。

【0014】赤外線焦電センサ19の出力は、人体の体温による赤外線を受けるとわずかながら変動する。さらに人はわずかながら必ず動いているため、人が近くにいる場合には受ける赤外線の量も変動し、従って赤外線焦電センサ19の出力も高低を繰り返す変動をしている。増幅部20はこの電圧変動を増幅し、比較器21の入力端子の一端に入れている。この増幅部20の信号が基準電圧22よりも大きくなると、比較器21の出力がハイレベルからローレベル、またはローレベルからハイレベルへと反転する。人が近くにいるほど電圧変動の振幅は大きくなるため、基準電圧源22の電圧を調整することによって人がどのくらいの近くまできたら比較

器21の出力が反転しマイクロコンピュータ10に知らせることができるかを設定できる。以上のようにして、人体センサ18は人の存在を検知するものである。

【0015】情報処理部9はマイクロコンピュータ10とマイクロコンピュータ10の動作クロックを作る水晶発振子11とを備えており、前記人体センサ18からの信号を受けると、前記情報記憶部7が記憶している伝言データの再生を音声合成部12に対して指示するものである。音声合成部12は、マイクロコンピュータ10からの音声データを一旦メモリ14に蓄えた後順次読み出して音声信号を出力していく音声再生制御部13を備えている。

【0016】以下本実施例の動作について説明する。伝言を入力するときは、情報入力部1のスイッチ6を押しながらマイク2に向かって伝言内容を話し、話し終わったところでスイッチ6を離すようにする。音声サンプル制御部5はスイッチ6が押されるとマイクロコンピュータ10に音声データが入ってくることを通知し、マイク2に入った音声信号をデジタル信号にしてマイクロコンピュータ10に渡す。スイッチ6が離されると音声サンプル制御部5は音声データの終了をマイクロコンピュータ10に通知し、音声データのサンプリングを終了する。マイクロコンピュータ10は、伝言登録時には情報入力部1の音声サンプル制御部5から送られてきた音声データを情報記憶部7のメモリIC8に書き込んでいく。この伝言が記憶された状態の時に、玄関等に設置した人体センサ18の出力がハイレベルとローレベルの反転を繰り返すと、つまり人体センサ18が人の存在を検知すると、マイクロコンピュータ10はメモリIC8から音声データを読み出し音声合成部12に音声合成を指示するものである。音声合成部12を構成する音声再生制御部13は、マイクロコンピュータ10からのデータを蓄積したメモリ14から、順次データを読み出してアナログ信号に変換し、音声信号を生成する。この音声信号は増幅部17で増幅され、スピーカ16から出力される。

【0017】図2は、マイクロコンピュータ10が備えている音声データの再生プログラムを示すフローチャートである。ステップ101でスイッチ6の押し下げを検知すると、ステップ102で音声データを情報入力部1を構成する音声サンプル制御部5から受け取り、続くステップ103でこの音声データを情報記憶部7を構成するメモリIC8に記録する。この状態で、つまり音声データを記憶した状態で、ステップ104の人体センサ18からの出力のチェックによって人体の存在を検知した場合には、ステップ105に進んで情報記憶部7が記憶した音声データを読み出して、ステップ106でこの音声データを音声合成部12に出力するものである。こうして音声信号の再生を終了すると、再びステップ101に戻って待機する。またステップ101でのチェックの

結果がn oである場合にはステップ104に飛び、またステップ104でのチェックの結果がn oである場合にはステップ101に戻るようになっている。

【0018】以上のように本実施例によれば、玄関または部屋に入ったときに人体センサ18の情報によってマイクロコンピュータ10が音声合成部12を駆動して、自動的に音声によって伝言を読み上げるようにできるものである。従って伝言用のホワイトボードを見なくても、確実に伝言内容を相手に伝達できる伝言情報整理装置とすることができるものである。

【0019】(実施例2) 続いて本発明の第二の実施例について説明する。図3は、本実施例の構成を説明するブロック図である。本実施例の伝言情報整理装置は、図3(a)に示している発呼側として作用する呼び出し装置31と、図3(b)に示している応答側として作用する情報出力端末43とから構成している。つまり呼び出し装置31は玄関や室の外に設置しているものであり、情報出力端末43は室内に設置しているものである。呼び出し装置31は、伝言を入力するための情報入力部1と、入力された伝言を記憶する情報記憶部7と、入力された伝言の保存と消去の管理を行う情報処理部10と、伝言内容や呼び出し信号を送信したり応答信号を受信するデータ通信部25とを備えている。また情報出力端末43は、伝言や呼び出し信号を受信したり応答信号を送信するデータ通信部34と、応答するためのスイッチ操作部33と、受信した伝言を音声合成する音声合成部12と音声合成部12の出力を音声として出力する音声出力部15とを備えている。

【0020】情報入力部1の構成は実施例1で説明したものと同様である。以下、実施例1で説明したものと同様の構成となっている部分については説明を省略する。データ通信部25は、マイクロコンピュータ10からのデータを高周波で変調する変調部26と、変調された高周波信号を増幅してアンテナ28から送信する送信部27と、アンテナ28で受信した高周波信号を増幅する受信部29と、受信した高周波信号をマイクロコンピュータ10に渡せるデータに復調する復調部30とを備えている。情報出力端末43を構成する音声合成部12・音声出力部15は、実施例1と同様の構成となっている。データ通信部34は、呼び出し装置31を構成するデータ通信部25と同様の変調部35・送信部36・アンテナ37・受信部38・復調部39を備えている。

【0021】以下本実施例の動作について説明する。呼び出し装置31の情報入力部1に備えているスイッチ6を押すと、室内に設置した情報出力端末43が呼び出される。つまりスイッチ6を押すと、音声サンプル制御部5はマイクロコンピュータ10に対して音声データが入ってくることを通知する。このスイッチ6を押した状態で使用者がマイク2に向かって伝言した音声信号は、音声サンプル制御部5からデジタル信号でマイクロコン

ピュータ10に伝達される。スイッチ6が離されると、音声サンプル制御部5は音声データの終了をマイクロコンピュータ10に通知し、同時に音声データのサンプリングを終了する。マイクロコンピュータ10はこの音声データを情報記憶部7のメモリIC8に書き込んでいくと同時に、情報出力端末43宛の呼び出し信号と、この呼び出し信号に引き続いてマイク2から入ったデジタル化した音声データをデータ通信部25から送信する。情報出力端末43は、データ通信部34のアンテナ37を介して受信部38がこの信号を受信する。次いで復調部39がこの信号をデジタルデータに復調して、制御部32にこの復調データを伝達する。制御部32はこのデータが呼び出し信号であると認識すると、音声合成部12の音声再生制御部13にブザーの音となるデータを送る。音声合成部12はこのブザー音を再生し、音声出力部15から情報出力端末43の使用者に聞こえるように発音させる。このブザー音に続いて、呼び出し装置31から送信された音声データを音声合成部12で再生し、スピーカ16から出力する。使用者はこの伝言を聞き取ると、スイッチ操作部33を押して、確認の応答信号を呼び出し装置31に送る。

【0022】呼び出し装置10のマイクロコンピュータ10は、前記送信の後、情報出力端末43から所定時間T₀秒以内に応答を検知しない場合には、先に情報記憶部7に記憶した音声データを伝言として保管する。T₀秒以内に情報出力端末43から応答があった場合には、呼び出しが伝わったとして情報記憶部7に記憶した先の音声データを消去する。

【0023】また情報出力端末43の使用者が前記T₀秒を越えてスイッチ操作部33を押すと、情報出力端末43は再生モードとして動作する。すなわち、スイッチ操作部33を押すと、この信号は送信部36・アンテナ37から送信され、呼び出し装置31のデータ通信部25からマイクロコンピュータ10に受信される。マイクロコンピュータ10はこの信号を受けて再生モードに入っていることを認識して、情報記憶部7を構成するメモリIC8に記憶された伝言を呼び出してデータ通信部25から情報出力端末43に送信するものである。情報出力端末43は、このデータをアンテナ37から受けて、制御部32の指示によって音声合成部12・音声出力部15から音声によって伝言を聞き取ることができる。

【0024】図4は、前記伝言の伝達と再生を示すマイクロコンピュータ10が有するプログラムを示すフローチャートである。ステップ201でスイッチ6の押し下げが行われたかどうかをチェックし、yesであればステップ202で情報出力端末43に対して呼び出し信号を送信する。続いてステップ203・ステップ204で情報記憶部7に記憶した伝言を情報出力端末43に送信する。ステップ6でスイッチ6の押し下げが引き続いて行われているかどうかをチェックし、yesであればス

ステップ201以下を再び繰り返す。noであれば、ステップ206に進んで情報出力端末43よりの応答の有無を確認する。このチェックの結果がyesであればステップ207に進んでメモリIC8に録音した音声データを消去する。またnoであれば、ステップ208に進んで一定時間T₀の経過の有無をチェックして一定時間T₀が経過した段階で、ステップ209でメモリIC8にこの音声データを伝言として保存する。またステップ208でのチェックの結果がnoである場合は、ステップ206以下を繰り返すようになっている。こうしてステップ207またはステップ209を終了すると、ステップ210に進んで情報出力端末43よりの応答信号の有無を確認する。つまり、再生モードとして動作するかどうかのチェックをするものである。このチェックの結果がyesであれば、呼び出し装置31が再生モードで動作する。つまりステップ211でメモリIC8が保存した音声データを情報出力端末43に送信し、送信が終了するとステップ212で音声データを消去する。音声データの消去が終了すると、ステップ201に戻って待機するものである。

【0025】以上のように本実施例によれば、他の部屋にいた家族を呼びだし伝言を伝えたいときに相手が部屋に不在で伝えられない場合には、呼び出し装置31は自動的に伝言を記憶し、あとで情報出力端末43の応答スイッチ33を押すと呼び出し装置31に記憶された伝言を伝送し再生してくれるもので、確実に伝言を伝えることができる伝言情報整理装置を実現するものである。

【0026】（実施例3）次に本発明の第三の実施例について説明する。図5は本実施例の構成を示すブロック図である。本実施例の伝言情報整理装置は、玄関や部屋の入り口などに取り付けて使用する図5（a）に示している発信器50と、発信器50の信号を受信する図5

（b）に示している携帯情報端末62と、室内に設置して使用する図5（c）に示している情報整理端末74とから構成している。携帯情報端末62は、発信器50からの信号を検知する信号センサ57と、伝言やメモを入力する情報入力部52と、入力された情報を記憶する情報記憶部7と、これらの情報の保管や消去や出力を管理する情報処理部9と、記憶している情報を外部へ出力する情報伝送部53とを備えている。また情報整理端末74は、携帯情報端末62が送った情報を受信する情報受信部68と、受信した情報を記憶する情報記憶部72と、情報の保管や消去を管理する情報処理部72と、操作部66・表示部67を備えている。

【0027】携帯情報端末62の情報処理部9は、マイクロコンピュータ10と水晶発振子11とを備えている。また情報記憶部7は、メモリIC8で構成している。情報入力部51は、0～9の数字キーとA～Zのアルファベットのキーや特殊文字のキーなどが並んだキースイッチマトリクス52で構成している。情報伝送部5

3は、マイクロコンピュータ10からのデータを高周波変調する変調部54と、この変調のかかった高周波信号を増幅し、アンテナ56から空中に放射する送信部55とで構成している。信号センサ57は、センサユニット58を用いて発信器50から放射されている信号を検知し、増幅部59によってこの信号を増幅し、比較器60によって増幅部59の出力信号があるしきい値を越えたかどうかを判定する。このしきい値は基準電圧源61によって設定している。

【0028】センサユニット58の出力は、発信器50からの信号を受け取るとわずかながら変動する。増幅部59はこの電圧変動を増幅し比較器60の入力の一端に入れている。増幅部59からの信号が基準電圧61よりも大きくなると、比較器60の出力がハイレベルからローレベル、またはローレベルからハイレベルへと反転する。このことによって携帯情報端末62を持っている人が発信器50の近くに来ると、信号センサ57は人が近くににいるものとしてマイクロコンピュータ10にこの情報を伝達する。

【0029】情報整理端末74の操作部66は、情報の出し入れの指示を入力するところである。また表示部67は、情報を表示するところである。また情報受信部68は、携帯情報端末62の情報伝送部53から送られてきた電波信号をアンテナ69によって受信復調する受信部70・復調部71を備えている。情報記憶部72は、メモリIC73によって構成している。

【0030】以下本実施例の動作について説明する。携帯情報端末62には色々な情報を入力し記憶させることができる。例えば、外出先で使った交通費などを忘れる前に情報入力部51のキースイッチマトリクス52を使用して記録できるものである。この情報は、情報記憶部7のメモリIC8に記憶される。こうしてこの携帯情報端末62を使用する人が帰宅すると、発信器50の発信信号が信号センサ57のセンサユニット58によって受信される。この結果比較器60の出力がハイレベルからローレベルまたはローレベルからハイレベルへと反転し、マイクロコンピュータ10は、使用者の帰宅を認識できるものである。このときマイクロコンピュータ10は、情報記憶部7のメモリIC8に入っているデータを読み出し、このデータを情報伝送部53に送信させる。情報伝送部53が送信した電波は、情報整理端末74の情報受信部68によって受信される。情報受信部68の復調部71は、この信号をマイクロコンピュータ64が認識できる0、1のデータに復調する。マイクロコンピュータ64はこのデータを受けて、情報記憶部72のメモリIC73に書き込みこのデータを記憶する。このようにして情報記憶部72に蓄えられたデータは、後で操作部66を操作することによって自由に読み出して表示部67に表示したり、編集したり、または消去することができる。

【0031】図6は、以上の携帯情報端末62の一連の動作を示すマイクロコンピュータ10が有するプログラムを示すフローチャートである。

【0032】ステップ301で情報入力部51のキースイッチマトリックス52からの入力の有無を確認し、yesの場合にはステップ302でこのデータを情報記憶部8を構成するメモリICに記録し、再びステップ301に戻って待機する。またステップ301でのチェックの結果がnoである場合には、ステップ303で信号センサ57の信号検知の有無を確認する。このチェックの結果がyesである場合には、ステップ304で情報記憶部8のデータを情報電送部53から送信する。またnoである場合には、再びステップ301に戻って待機するものである。

【0033】以上のように本実施例によれば、外出先で思いついたことを携帯情報端末62を使用してメモした場合この内容を一旦情報記憶部7に保存でき、帰宅時に発信器50による信号を受けて、情報整理端末74を使用してこの内容を確認できる伝言情報整理装置を実現できるものである。

【0034】

【発明の効果】本発明の第一の手段は、伝言を入力するための情報入力部と、入力された伝言を記憶する情報記憶部と、人の動きを検知する人体センサと、前記情報記憶部にある伝言データを管理し前記人体センサからの信号を受けると伝言データの再生を指示する情報処理部と、記憶された伝言を再生する音声合成部と、音声信号を出力する音声出力部とを備えた構成として、毎日帰宅したときに伝言用のホワイトボードを見なくても玄関または部屋に入ったときに伝言を自動的に読み上げてくれる伝言情報整理装置を実現するものである。

【0035】本発明の第二の手段は、伝言を入力するための情報入力部と、入力された伝言を記憶する情報記憶部と、入力された伝言の保存と消去の管理を行う情報処理部と、伝言内容や呼び出し信号を送信したり応答信号を受信するデータ通信部とを備えた呼び出し装置と、伝言や呼び出し信号を受信したり応答信号を送信するデータ通信部と、応答するためのスイッチ操作部と、受信した伝言を出力する音声出力部とを備えた情報出力端末とからなる構成として、伝言相手が不在の場合には自動的に伝言を記憶する伝言情報整理装置を実現するものである。

【0036】また本発明の第三の手段は、玄関など人の入室するドアなどに取り付けられた発信器と、この発信器からの信号を検知する信号センサと伝言やメモを入力する情報入力部と入力された情報を記憶する情報記憶部とこ

れらの情報の保管や消去や出力を管理する情報処理部と記憶している情報を外部へ出力する情報伝送部とからなる携帯情報端末と、携帯情報端末が送った情報を受信する情報受信部と受信した情報を記憶する情報記憶部と情報の保管や消去を管理する情報処理部とからなる情報整理端末とを備え、携帯情報端末の信号センサが働くと携帯情報端末の情報記憶部内の情報を情報整理端末へ送る構成として、外出先で思いついたことをメモした場合、この内容を一旦保存でき、帰宅時にメモした内容を確認できる伝言情報整理装置を実現するものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第一の実施例である伝言情報整理装置の構成を示すブロック図

【図2】同、マイクロコンピュータが有している動作プログラムを示すフローチャート

【図3】(a)本発明の第二の実施例である伝言情報整理装置を構成する呼び出し装置のブロック図

(b)同、情報出力端末を示すブロック図

【図4】同、マイクロコンピュータが有している動作プログラムを示すフローチャート

【図5】(a)本発明の第三の実施例である伝言情報整理装置を構成する発信器を示すブロック図

(b)同、携帯情報端末を示すブロック図

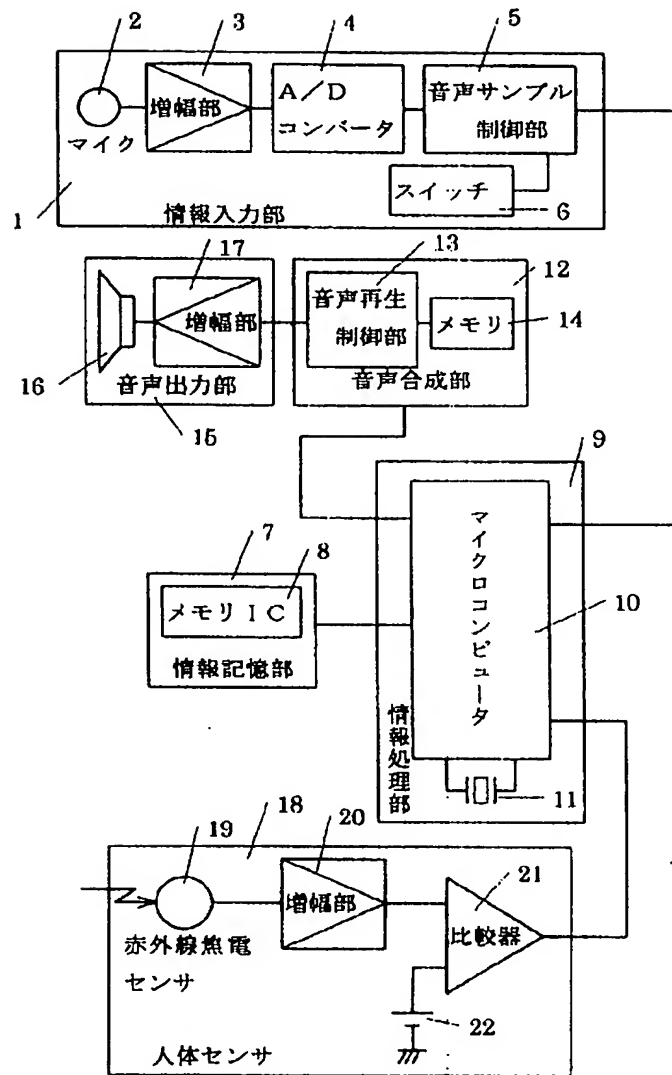
(c)同、情報整理端末を示すブロック図

【図6】同、マイクロコンピュータが有している動作プログラムを示すフローチャート

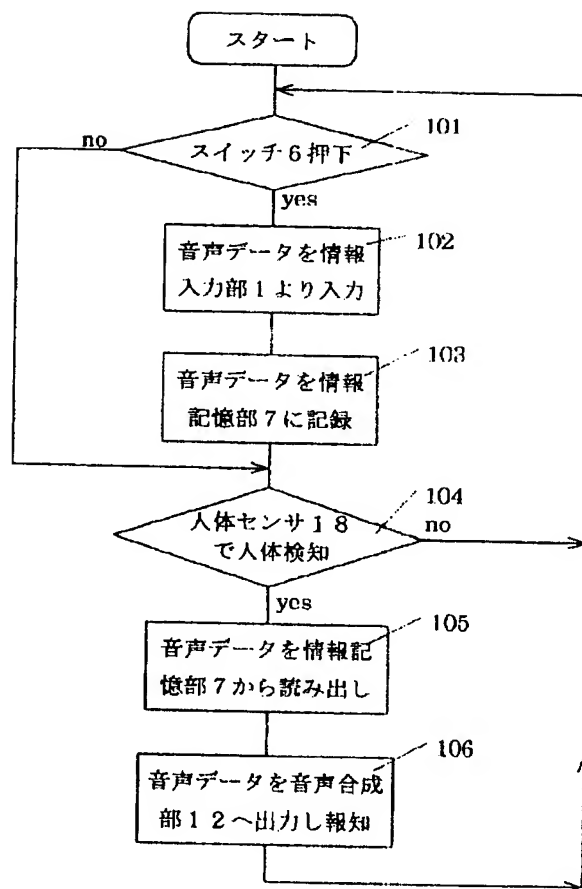
【符号の説明】

- 1 情報入力部
- 7 情報記憶部
- 9 情報処理部
- 12 音声合成部
- 15 音声出力部
- 18 人体センサ
- 25 データ通信部
- 31 呼び出し装置
- 33 スイッチ操作部
- 34 データ通信部
- 43 情報出力端末
- 50 発信器
- 51 情報入力部
- 53 情報伝送部
- 62 携帯情報端末
- 63 情報処理部
- 68 情報受信部
- 72 情報記憶部
- 74 情報整理端末

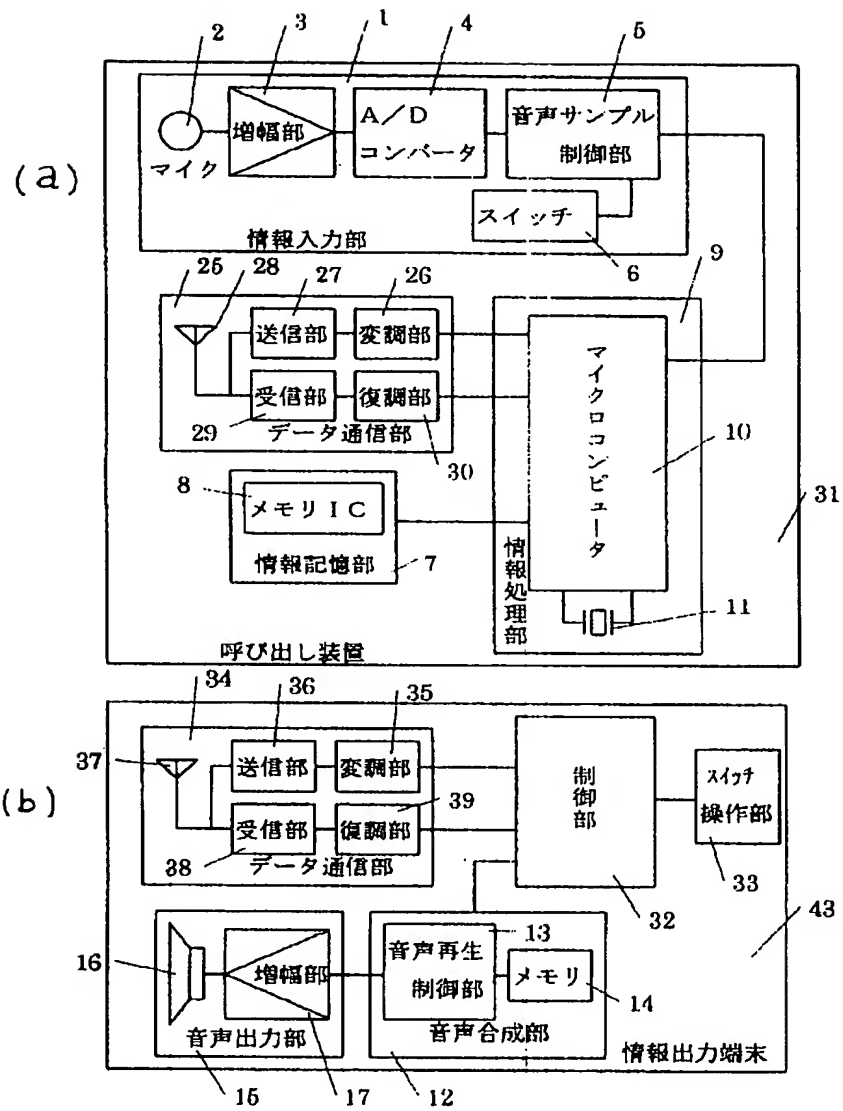
【図1】



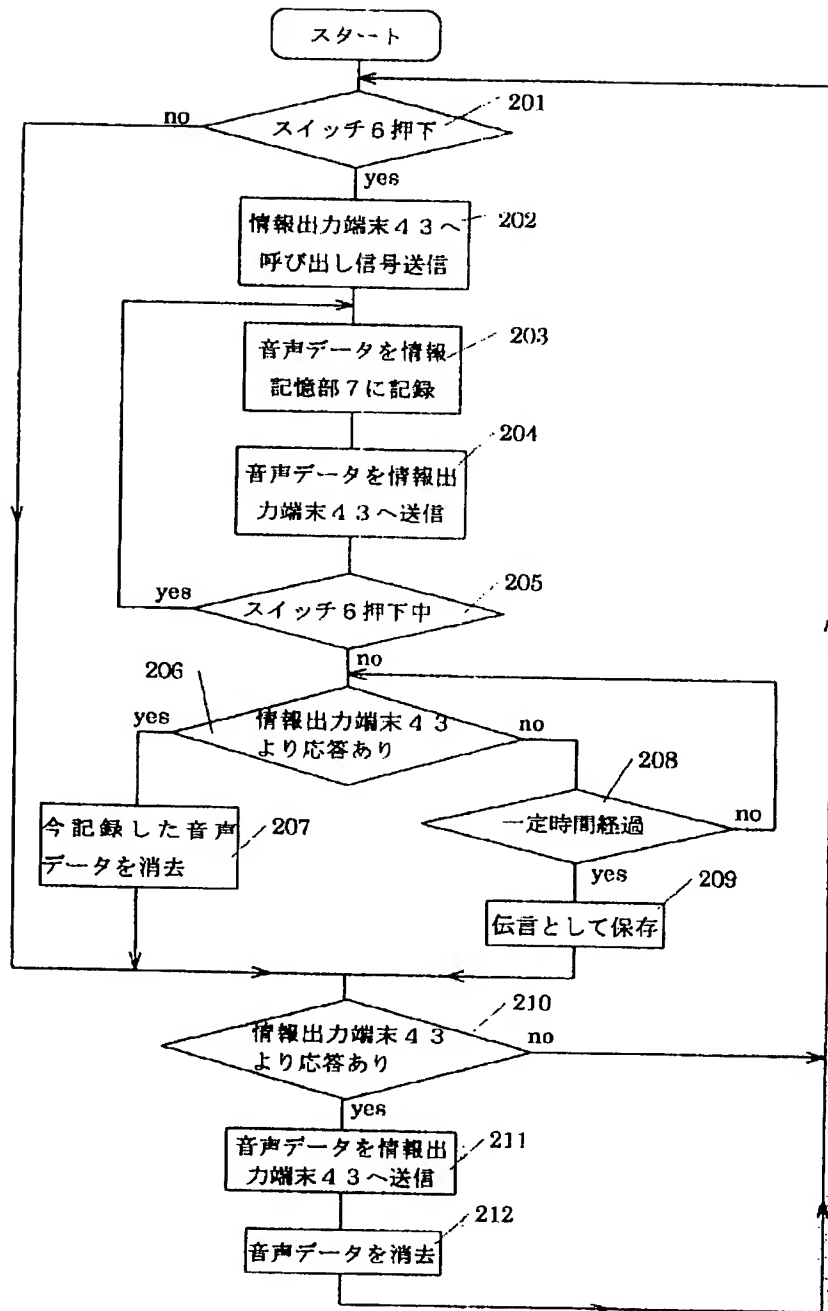
【図2】



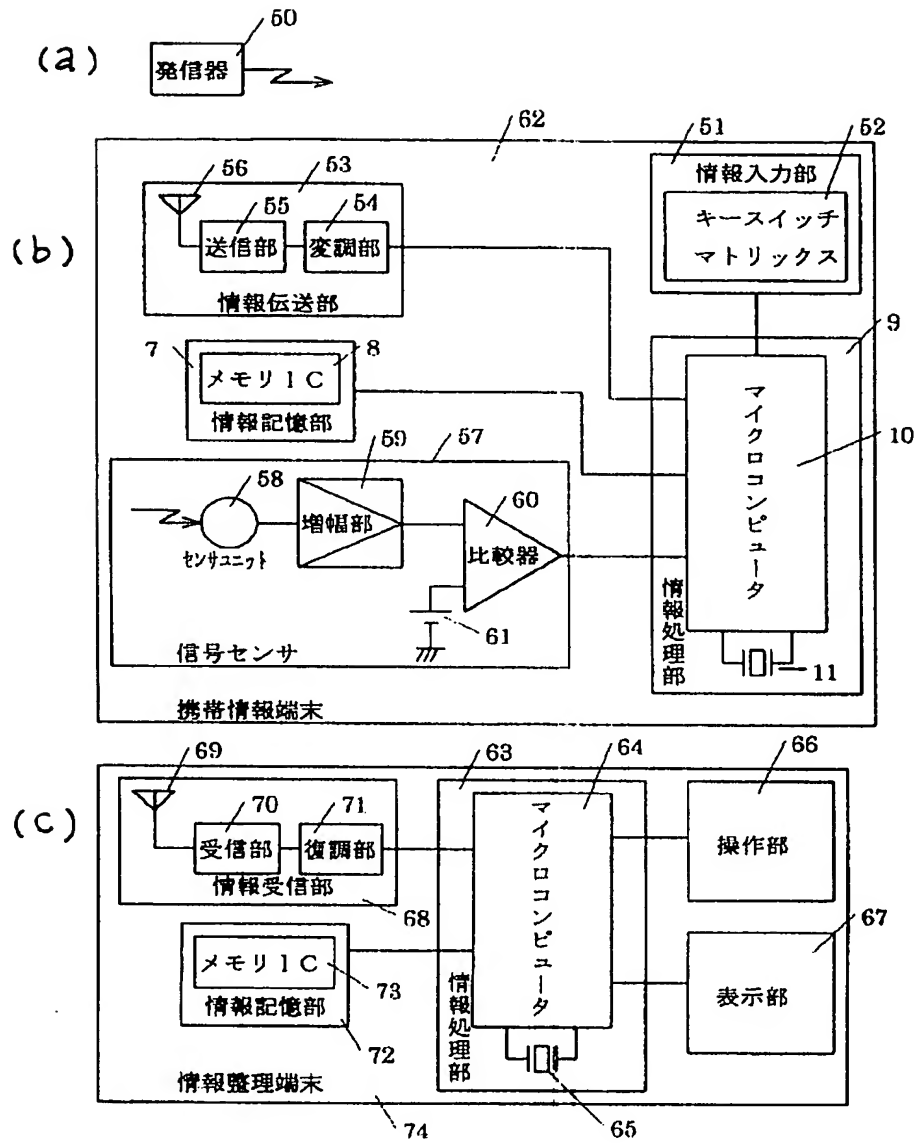
【図3】



【図4】



【図5】



【図6】

